

環境宣言

早稲田大学では環境宣言を策定し、全学的に環境保全活動を推進しています。

早稲田大学環境宣言

早稲田大学は、グローバルな視野とローカルな視座を持つ地球市民の育成と地球規模の課題に対する組織的交わり組みによる人類の未来への貢献という、21世紀にふさわしい大学づくりをめざしている。

そして、早稲田大学は、「地球環境の保全」という地球規模の課題に対し、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じて、社会の一日として先見性と積極的な姿勢をもって取り組む責務があることを認識する。

そこで、早稲田大学は、さまざまな局面において展開されている環境負荷の低減や循環型社会の実現に寄与する活動を統合して、環境マネジメントシステムを構築し、次の活動を積極的に推進する。

1. 早稲田大学は、地球環境の保全を課題とする教育、研究の推進を図り、人類に貢献する人材の育成および環境分野の研究の進展を期する。
2. 早稲田大学は、環境にかかわる教育、研究の成果を踏まえて、地球社会をはじめとするあらゆる人々に対する教育、啓発、普及活動を積極的に展開する。
3. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動が環境に及ぼす影響を常に認識し、地球環境に配慮した「エコ・キャンパス」の実現をめざして、継続的に改善を図るとともに、取組汚染の予防に努める。
4. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動において、環境に関連する法規、規制、協定、学内規定等を遵守する。
5. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動が環境に及ぼす影響を調査、分析し、環境目的および環境目標を定めてその実現を図り、定期的に見直しをする。
6. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動において、地球温暖化低減策の推進、グリーン購入の推進、エネルギー使用量の削減、廃棄物発生量の削減、資源のリサイクルの向上に努める。
7. 早稲田大学は、あらゆる人々に環境方針を公開し、「地球環境の保全」の取組組みに対して、理解と協力を求める。
8. 早稲田大学は、大学全体で環境マネジメントシステムを運用し、継続的な改善を図るとともに、学生、教職員および早稲田大学にかかわる人々にその内容を周知する。

1999年3月26日制定

2006年7月1日第3項下編を改訂

学校法人 早稲田大学

早稲田大学は、東京都が実施する「地球温暖化対策計画」に基づいて、温室効果ガス排出削減に向けて、省エネルギー化および環境負荷の低いエネルギーへの転換に努めています。その取組は、西早稲田と大久保キャンパスが最高ランクのAAの評価を、戸山キャンパスがA+の評価を得ています。主に以下のよう な取組を行っています。

- 冬の断熱を、LEDポスターから空調機器に順次変更して、CO₂排出量の多い暖房の使用を削減します。
- エアコンや蛍光灯を効率の高い機器に順次更新して、エネルギー消費量を削減します。
- トイレなどに自動水栓装置、集塵装置を設置して水使用量を削減します。
- 省エネ法に基づく「管理標準」に従って空調設備やポイラー設備を運用し、効率的なエネルギー使用に努めています。

2009年度までの長期計画に基づいて2005・2006年度は、上記取組を段階的に進めました。

なお、早稲田大学はチーム・マイナス8%に参加し、全学的に地球温暖化低減に取り組んでいます。

目標とするCO₂削減率

キャンパス	2005年度	2006年度
西早稲田キャンパス	10.32	
戸山キャンパス	5.13	
大久保キャンパス	7.02	

*2002年度～2004年度は3年間のCO₂排出量の平均値を基準とした。
*2002年度～2009年度の削減の取組の進捗により、上記CO₂削減率の目標を見直すこととした。

地球温暖化低減、省エネルギーに関する取組み

科学技術に関する研究・教育を行っている施設（特定施設）から主に下水渠へ流される排水について、早稲田大学環境保全センターで毎月定期的にpH、酸などの重金属、揮発性有機化合物（VOC）等の項目の調査を実施しています。対象となる7キャンパス計23の排水箇所における分析の結果、検査施設へ流入する手前の調査地点でVOCの濃度が排水標準をやや超えていた箇所があったものの、下水排水標準に適合しないような排水の流出はありませんでした。また下水渠局による立入水質調査も頻りに行われており、良好な水質の維持管理がなされています。



水質管理 (理工系実験排水の定期的水質分析)



環境マネジメントシステム・WEMS(早稲田大学環境マネジメントシステム)

●環境マネジメントシステムの拡大

早稲田大学では2000年9月早稲田キャンパスにおいてISO14001の認証を取得しました。このシステムにより2000年から2005年までの6年間、環境保全活動を行ってまいりましたが、2006年7月より環境マネジメントシステムを刷新すると共に運用範囲を学校法人早稲田大学全体に拡大しました。

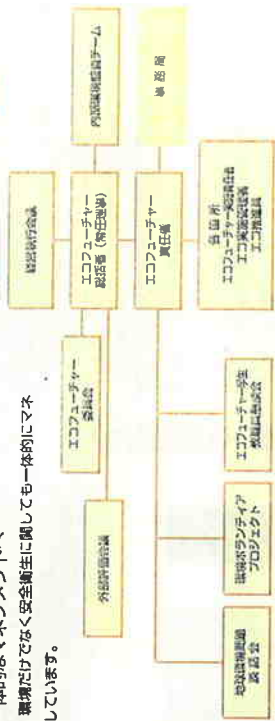
●第三者認証について

2006年7月から運用している早稲田大学環境マネジメントシステム(Wasada University Environmental Management System: 略称 WEMS)が「ISO-14001」(ISO14001規格)に準拠していましたが、第三者認証は取得していません。

●環境と安全衛生の一体的なマネジメントへ

今後WEMSにおいて、環境だけでなく安全衛生に関しても一体的なマネジメントすることを目標としています。

■実施体制



■2005年度環境目標と達成状況(西早稲田キャンパスのみ)

カテゴリー	2005年目標	達成状況
経理の普及活動	国際ボランティアの普及率を50%達成	○
環境総合研究センターの研究活動支援	環境総合研究センターの研究活動支援、環境総合ボランティアプログラム開催、学生とのコミュニケーション	△
グリーン購入の推進	吉野紙含率 100%、白色度 70%用紙の使用	△
紙類削減活動の推進	建物断熱を考慮し、2001年度の4%増の835.8tに削減	○
資源のリサイクル	年間廃棄物総量に対する再資源化物質の割合を85%にする	×
揮発性有機化合物削減	揮発性有機化合物(2種)の削減率を考慮し、1t当たりの排出量を1t削減を考慮し、2001年度比4.7%削減の58.59tとする	○
エネルギー削減	ガス使用量を、建物断熱を考慮し、2001年度比82%削減の578,221m ³ に削減	○
	水使用量を、建物断熱を考慮し、2001年度比7%削減の127,545m ³ に削減	○
	重油使用量を2000年度比48.8%減の272kL以下	×
	電力使用量を、建物断熱を考慮し、2001年度比20%削減の22,476.85kWhに削減	○

○:目標達成 △:一部目標未達成 ×:目標達成できず

■近年の早稲田大学の主な建物建設状況

- 1998年3月～ 西早稲田キャンパス(1)4号館
- 2001年7月～ 西早稲田キャンパス(1)5号館
- 2005年2月～ 西早稲田キャンパス(1)6号館
- 2006年3月～ 西早稲田キャンパス(1)7号館
- 2008年度以降 西早稲田キャンパス(1)8号館

■2006年度環境目標(学校法人早稲田大学全体)

カテゴリー	2006年目標
学生の環境意識の向上と環境保全活動への参加	「化学物質取扱における環境保全・安全説明会」の実施、環境維持推進委員会等のシンポジウム開催、環境ボランティア学生ボランティア、サークル学生環境委員会の開催
関係員の環境保全意識の向上	研修会・コミュニケーション等の開催
安心・安全な学習環境の整備	アスベスト除去計画の実行、シックハウス対策物質の監視、PCBの適正管理および屋根の処理、分離キャンパスの徹底
廃棄物の発生抑制、リサイクル	廃棄物発生抑制率(2005年度比) 0.5%削減、リサイクル率 47%(2005年度比)1ポイントアップ、化学物質使用量削減率86%、化学物質の適正管理、事務所等でのグリーン購入の徹底
エネルギー削減	電力使用量76,538,680kWh(2005年度比-1.5%)
地球温暖化物質削減	ガス使用量2,524,951m ³ (2005年度比+2.6%) (注1) 水の使用量659,791m ³ (2005年度比-2.4%)
重油削減	重油使用量1,137kL(2005年度比+1.3%)
環境報告書の作成	環境報告書の作成

(注1)ボイラーを廃止し、ガス空調機への転換をすすめるため、ガス使用量は増加します。

環境負荷を「下」ろす

温室効果ガス排出量



電気使用量



ガス使用量



水道使用量



重油使用量

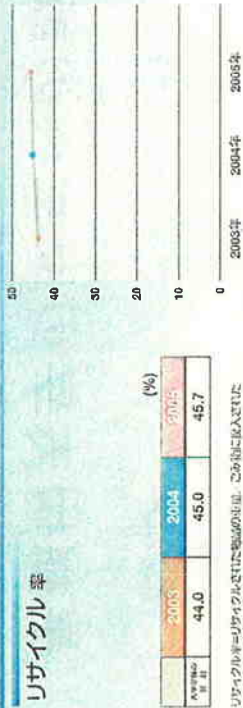


廃棄物発生量 重量ベース



※廃棄物発生量はごみ焼入れられたりしたすべての焼入れの重量です。

リサイクル率



※リサイクル率はリサイクルされた重量の割合。ごみ焼入れされたすべての重量の重量×100

環境保全活動の歩み

年度	取組み
1979	環境保全センターの設置
1992	廃棄物問題検討委員会の設置
1996	財政改革推進本部の設置
1997	地球環境問題懇話会の発足
1998	人間科学部「人間科学部環境保全基本構想」の発表
1998	Eco-キャンパス推進本部の設置と東京都との協働
1999	環境問題懇話会の開催
2000	西早稲田キャンパスでISO14001認証取得
2002	環境総合研究センターを新設
2002	ポランテアセンターに「環境ポランテア学校」開設
2003	西早稲田キャンパスでISO14001認証更新
2003	総務部に環境安全管理課を新設
2005/4	理工学部材料環境・エネルギー研究開発
2005/4	環境に配慮した新8号館竣工
2005/4	Eco Campus Fact Sheet 2005発行
2005/4	第14回環境ポランテア学校開催 市民ヒートアップ協議会
2005/5	第15回環境ポランテア学校開催
2005/5	トイの汚水はどこへ行く? 学生会館センター見学
2005/6	第35回地球温暖化環境問題協議会開催 演題:「製品ライフサイクルの設計と評価」 講師:高田祥三(理工学部教授)
2005/6	早稲田大学緑化中間報告発表
2005/6	第16回環境ポランテア学校開催
2005/6	「大学のこみはどこへ行く?ベントボトルリサイクル工場見学」
2005/7	第17回環境ポランテア学校開催 「水と土にふれながら、アフリカの砂漠化と植林活動を学ぼう!!」
2005/7	シックハウス対策を実施
2005/7	打ち水大作戦 in 早稲田大学
2005/8	Eco-キャンパス学生会館共創協議会開催
2005/10	リユース弁当プロジェクト発動
2005/10	アスベスト対策の実施
2005/10	第18回環境ポランテア学校開催 「ヤップ屋での自然プログラム」報告会
2005/11	第19回環境ポランテア学校開催 「ヨーロッパ・モルド(共和国)報告会」
2005/12	第36回地球温暖化環境問題協議会開催 演題:「残土・産廃問題とたたかう市民運動」 講師:井村弘子(残土・産廃問題ネットワーク・千葉県事務局長)
2005/12	第20回環境ポランテア学校開催 「エコプロダクツへ行こう」
2006/2	ワシガリ・マータイ氏に名誉博士号を贈呈
2006/7	早稲田大学環境マネジメントシステム(WEMS)を全学に展開

環境に関するコミュニケーション

■ 吉情・質問・件数

年度	吉情	その他	研究費
2005年度	2	26	28
2006年度	0	6	6

2005年4月～2006年7月まで

●主な吉情内容
早稲田大学生から、夏季空襲の慰問決定運動について、感謝状を贈るなどの吉情
近郊住民から、キャンパス内の環境維持が近隣に及ぼす影響について
●主な質問・取組内容
他大学生から、環境への取り組み、環境問題に取り組むための取組及びアンケート
早稲田大学生から、カネ水子一ツのついでにの問い合わせ